

3月23日(日)三高中学校の閉校記念行事が、同校の体育館で開催されました。生徒や学校関係者、そして地域の方が多数出席され、盛大な会となりました。おきみ太鼓響輝の演奏や吹奏楽部OB・OG・教職員の演奏、フリーアナウンサーの本名正恵さんの講演などがあり、会場内からは、大きな拍手が送られていました。また、運動場にはキッチンカーが登場し、集まった同窓生が食事をとりながら昔の話に花を咲かせるなど、閉校を名残惜しみながら語り合う姿がありました。3月25日(火)には同校の閉校式が行われ、校旗や校印が校長から教員に返納されました。喜多村昭宏校長は「13人の素敵な子どもたちが地域の方々、先生方に囲まれて、本当に幸せな一年間でした。」とあいさつしました。また、在校生代表の東秀宝さんは「三高中学校最後の在校生としての誇りを持ち、三高中学校で生活したこと、体験したことをこれから生活に生かしていきたいです。」と思いを述べました。

三高中学校閉校記念行事・閉校式

おきみ太鼓 響輝演奏



三高中学校閉校記念行事



本名正恵さん講演

ありがとう



吹奏楽部OB・OG教職員演奏

三高中学校

校旗・校印を岡田教育長へ返納する喜多村校長



江田島市立三高中学校閉校式



第200回自然観察会(特別研修会)



市場見学



さつみ科学館自然観察会の特別研修会として広島市中央卸売市場全面協力のもと市場見学が開催されました。参加者は早朝2時に江田島市を出発し、眠たい目をこすりながら現地に到着すると、市場は早朝とは思えないほど活気にあふれ、新鮮な魚の売買が行われていました。参加者は市場のせりを見学し、特にせり開始の鐘を鳴らすなど、特別な経験をさせてもらいました。広島市中央卸売市場では、えたじまの魚は年間約287トン(※1)を取り扱われ、競りや相対取引で仲卸業者へ売買され、買受人を通じて消費者へ届けられます。能美町で漁師をするマルキ水産の内藤希誉志さんから、「市場に持つてくるまでにとりだけ手間をかけるのが重要」とえたじまの魚を品質良く消費者へ届けるためのこだわりを聞きまし。スーパーで当たり前に並ぶ新鮮な魚も、多くの働く人のこだわりのもと届けられていることを改めて学びました。

※広島市中央卸売市場では2社の卸売業者がいます。

